

病気の自覚症状は？

症状がないままに
身体を蝕むものも

病気になったことがすぐにわかれば早く治療もでき、治る可能性も

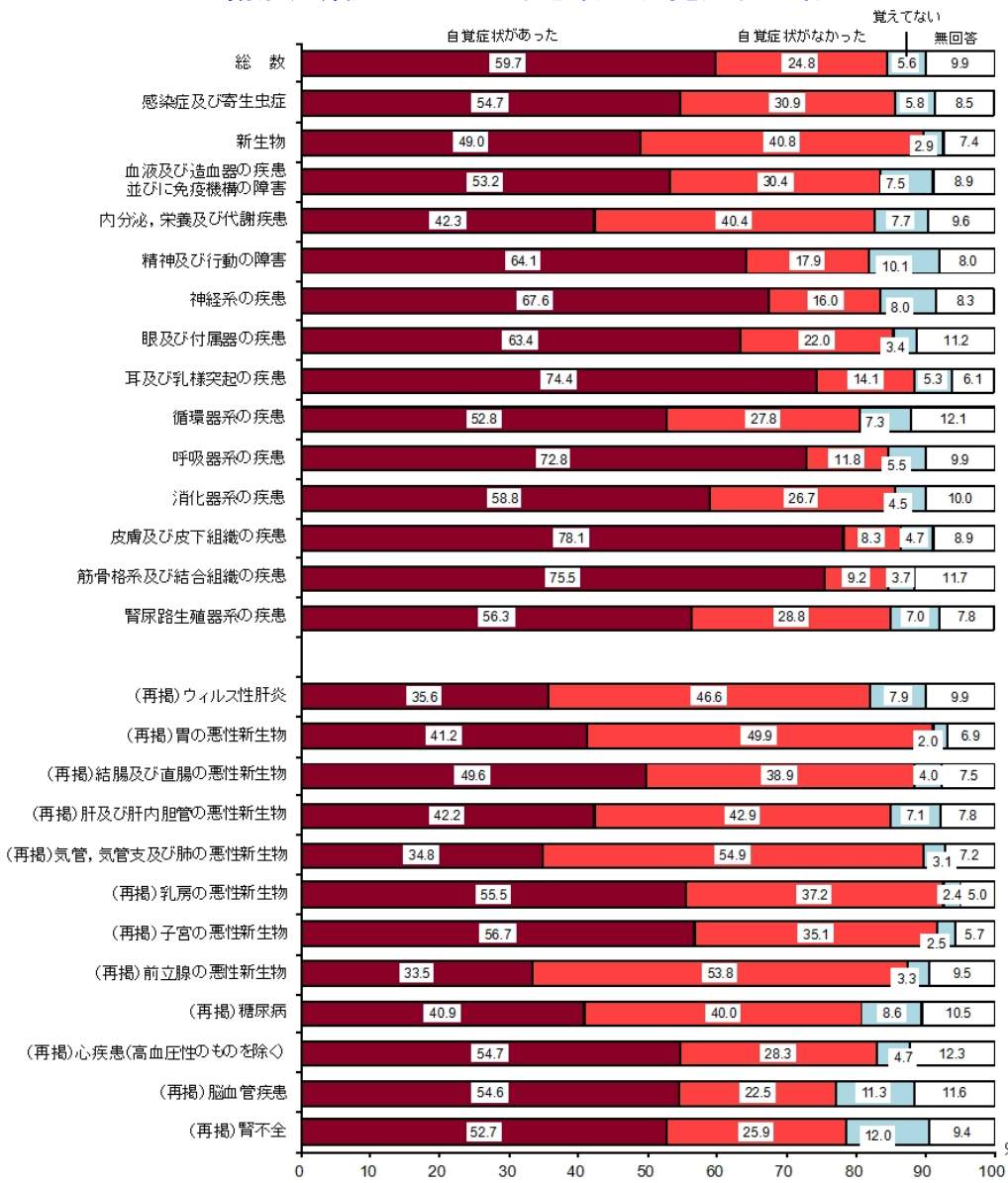
高いでしょうが、高血圧のように自覚症状がほとんどないものもあります。そして、定期健診で早いうちに

発見でき、「血圧が高いから、精密検査を受けるように」と言われても、自覚症状がないからと放置する人がいます。放置すると、動脈硬化になったり、さらには虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）や脳卒中などの発作を起こす怖れがあります。

症状がほとんどないままに、長年かかってひそかに血管を蝕んでいくため、高血圧は、「サイレント・キラー」と呼ばれることもあります。

厚生労働省の「平成23年受療行動調査（確定数）の概況」で、主な傷病分類別に外来患者の自覚症状の有無をみると、自覚症状がなかった割合が多かったのは、「新生物」40.8%、「内分泌、栄養及び代謝疾患」40.4%などとなっており、新生物の中では、「気管、気管支及び肺の悪性新生物」54.9%、「前立腺の悪性新生物」53.8%、「胃の悪性新生物」49.9%、「肝及び肝内胆管の悪性新生物」42.9%、などとなっています。

主な傷病分類別にみた外来患者の自覚症状の有無



厚生労働省「平成23年受療行動調査（確定数）の概況」より